

## 「顔の見える木材での家づくり」グループ30選に選定 —宮古・下閉伊モノづくりネットワーク林産部会—

財団法人日本住宅・木材技術センターは、「顔の見える木材での家づくり」の活動を行っている優良30グループを初めて選定し、管内の宮古・下閉伊モノづくりネットワーク林産部会（会長：甲斐谷修治）が東北以北で唯一選ばれました。

今回の表彰は、同センターが林野庁の支援を受けて、「顔の見える木材での家づくり」の活動支援の一環として行っているもので、3月26日農林水産省で行われた表彰式で、当部会の甲斐谷会長がグループを代表し認定状の授与を受けました。

宮古・下閉伊モノづくりネットワーク林産部会は、「宮古・下閉伊地域で生まれ育った木材を使い、地域の職人の手で地域に暮らす人のための家」をコンセプトとする「みやこ型住宅」の推進と地域林業の活性化を目的として活動しており、「みやこ型住宅」は平成16年度から平成20年度までに27棟が認定されています。

木材需要の大きなウェイトを占める住宅分野での地域材の利用は林業の活性化に特に重要であり、地域材を活用した家づくりの取組みが各地に広まることを願っています。

